

栃木県吹奏楽連盟〈季刊〉広報誌 平成25年1号

吹奏太郎



目 次

- ★ 理事長 巻頭言 「夢中になれる音楽の楽しさ・・・」 1
栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男
- ★ 1. 第19回東関東バンド・セッション2013 及び
第14回東関東選抜吹奏楽大会 報告 2
第14回東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想
作新学院中等部2年 部長 藤本 晶
第19回東関東バンド・セッション2013 東関東吹奏楽研修会に参加しての感想
栃木県立茂木高等学校 3年 フルードパート 渋井 ひなの
- ★ 2. 第19回東関東吹奏楽コンクール 報告 3
小学校の部 那須塩原市立大山小学校 阿部 千紗希
中学校の部 A部門 那須塩原市立西那須野中学校吹奏楽部 部長 田端 成美
中学校の部 B部門 宇都宮市立鬼怒中学校吹奏楽部 顧問 島田 洋暁
高等学校の部 A部門 栃木県立宇都宮南高校吹奏楽部 顧問 西垣 徹・部長 阿久津 遥
高等学校の部 B部門 栃木県立大田原女子高等学校吹奏楽部 部長 橋本 理那
大学の部 白鷗大学ウインドオーケストラ 部長 山崎 祥子
- ★ 3. 第19回東関東マーチングコンテスト 報告 5
青藍泰斗高等学校 吹奏楽部顧問 與儀 和弘・2年 中島 胤美
- ★ 4. 第12回東関東小学校バンドフェスティバル 報告 6
高根沢立阿久津小学校 金管バンド部 部長 伊藤 雪奈
- ★ 5. 第13回東日本学校吹奏楽コンクール 報告 7
真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 顧問 小宅 宏美
部長 渡邊 佳奈 副部長 高橋 穂乃子 副部長 永倉 沙奈
栃木県立鹿沼南高等学校吹奏楽部 顧問 荻町 修
- ★ 6. クリニック&コンサート情報 8
クリニック（講習会）の情報
栃木県吹奏楽連盟加盟団体から広報部に寄せられたコンサートの情報
- ★ 編集後記
栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之（作新学院高校）

「夢中になれる音楽の楽しさ・・・」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

毎年この時期になると私は強く思うことがあります。コンクールも全国大会が終わりましたが、全国津々浦々の出場者の中にはたくさんの困難な悩みを抱えて出場された学校、団体があることに気付かされました。全国大会に選ばれるには並々ならぬ努力と想像を絶する困難を乗り越えて来ているのです。

今回の全国大会では東日本大震災と福島原発の甚大な被害に遭い、人間が生きる希望を失ってしまうほど途方に暮れてしまった生徒たちが元気に頑張って出場されました。会津若松市立一箕中学校は避難していた生徒が約三分の一近く部員に加わり共に頑張りました。また、その反面、南相馬市立原町第一中学校、福島県立磐城高校、福島県立平高校は各々他校に約三分の一の生徒が避難して離れて行ってしまったという悪条件の中で頑張って出場しました。私は音楽を共に奏で、心を癒し、希望を見出した生徒たちがたくさんいたことを知って、音楽の素晴らしい魔法の力を十分に知らされた気がいたしました。

この時期、私たちは部活動に一段落したという感じがいたしますが、1・2年生にとっては部活動の出発点であります。というのも、3年生が引退をして、これからどのような部活にするか迷い、練習方法、部員の確保、結束力、組織の立て直し等、色々と考えているかもしれませんが、一日でも早く実行に移して練習をしていかなければならない時期なのです。寒い冬場の短い時間いかに計画性をもって練習をするかによって、夏場のコンクールに花が咲をさせられるかどうかにかかってきます。

寒い中の辛い練習を克服したならば、きっと生徒の皆さんは中学時代、高校時代の青春を音楽に夢中になって一日一日を過ごした充実感と達成感で、立派な青春時代を送ったと感ずることができるでしょう。

皆さんが青春時代に音楽に夢中になったことが、一生の宝であり、心の豊かな人生を送ることにつながるのです。

来年の3月には県吹奏楽講習会を開催する予定です。宇都宮市文化会館において、茨城県の常総学院高等学校吹奏楽部を招いて、盛大に開催します。全国トップレベルの常総学院の生徒さんと共に部活動の在り方や、練習方法をお互いに情報交換し、また、彼らの生（なま）の音楽会を聴いて感動を味わってください。参加をしなければ味わうことができません。これが音楽（吹奏楽）が上手になる秘訣です。



第19回東関東バンド・セッション2013 及び

第14回東関東選抜吹奏楽大会 報告

平成25年6月8日(土)・9日(日) 会場 千葉県文化会館 大ホール
「東関東選抜吹奏楽大会に出場して」

作新学院中等部 2年 部長 藤本 晶

私たち作新学院中等部吹奏楽部は、今回初めてこの大舞台に出場させていただきました。そんな私たちの活動の一部をご紹介します。

私たちの部活は秋に3年生が引退すると新しい活動目標を一字に表し、その言葉を目標に活動をしています。昨年の秋に決めた一字は「繋」です。この言葉に込められた想いは、部員全員の心が繋がり、その私たちの演奏を聴いて下さる皆さま全員と繋がる、そのような音楽を奏でよう！！という気持ちが込められています。そんな私たちに東関東選抜吹奏楽大会への出場への推薦をいただけたと知った時は、まさに今こそが「繋」を発揮するとき！という興奮とハイレベルなステージで演奏することへの緊張感とうれしさでいっぱいでした。

演奏した曲目は、夏のコンクールでも自由曲として演奏することとなる「エル・カミーノ・レアル」(アルフレッド リード作曲)。そして2曲目は「ディスコ・キッド テンプラス」(東海林修 作曲)。2曲目は当時まだ入学したばかりの1年生で編成したキッズ・ダンサーも登場しました。

また、演奏にむけて、出場経験のある作新学院高校の先輩方にアドバイスをいただいたり、他の学校の演奏DVDを観たりして、聴いて下さる方々に楽しんでいただくにはどうしたらよいかを試行錯誤をくり返しました。大きな舞台で演奏することへの大きな焦りや不安で、意見がまとまらない時もありましたが、練習を重ねるごとに部員全員が繋がりを感じ、本番へ向けて全力で演奏しようと気合いが入りました。

そして迎えた6月9日、大会当日。他校のレベルの高さに圧倒されながらも、楽しく明るくステージを盛り上げることができたと思います。演奏中にお客様からも手拍子をしていただき、音楽を通して私たち演奏者と会場の皆さまと繋がっている時間を過ごすことができ、幸福感を味わうことができました。このような機会をいただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。



現在は3年生が引退し、新体制となり、新たに「誇」という一字を活動目標として練習に取り組んでいます。この東関東選抜吹奏楽大会での経験を誇りに思い、さらに演奏を聴いて下さる方々と繋がれるような吹奏楽団になれることを目標にがんばっていきます。

「平成25年度東関東高等学校選抜バンドに参加して」

栃木県立茂木高等学校 3年 フルートパート 渋井 ひなの

今年の6月、千葉文化会館で、東関東選抜吹奏楽大会が行われました。選抜バンドの栃木県代表として、茂木高校からは私を含めた3人が参加し、とても貴重な経験をさせていただきました。

初日、いつもとは違う環境に戸惑い、他校の皆さんと仲良く演奏をしていけるのか、不安でいっぱいでした。しかし、どんな演奏が出来上がるのだろうというわくわくした気持ちもありました。いざ練習が始まると、私はとても驚きました。今まで自分が感じたことのない、音のまとまりを感じたからです。また、1人1人の技術のレベルが高く、一緒に演奏をして学ぶことばかりでした。ご指導いただいた犬塚禎浩先生はとても熱く、音程、音色など全てを大切にしている姿勢にとっても魅力を感じました。そんな指導の中、参加したみんなの音の一つにまとまっていくのを実感することができました。

初日の練習が終わり、宿泊先では楽しい時間を過ごしました。それぞれの部活や進路の話で盛り上がり、さっき会ったばかりのメンバーとは思えないほど仲が深まりました。本番の演奏は楽しく吹くことができ、会場が一つになった「花は咲く」にとっても感動しました。

2日間という短い時間でしたが、このような貴重な講習会に参加することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を今後活かせるよう、頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



第19回東関東吹奏楽コンクールに参加して

「第19回東関東吹奏楽コンクールに参加して」

那須塩原市立大山小学校 阿部 千紗希

私たちの今年の目標だった「東関東大会」に出場させていただくことができ、とてもうれしく思っています。

会場が宇都宮市文化会館だったので、落ち着いて演奏することができました。

千葉や茨城など、他県の演奏を聴く機会がありませんので、どんな演奏を聴かせてもらえるのだろうと、とても楽しみに参加しました。

たくさんの学校の演奏を聴かせていただきましたが、どの学校も、美しい音色で一体感のある音楽を奏でていたので、とても感動しました。

ブレスや息づかいなど、「すごい！」と驚くことばかりで、素晴らしい演奏を実際に聴くことで、とても勉強になりました。

自分たちの演奏はまだまだで、課題がたくさんありますが、いい演奏にふれることができ、また目標をもつことができました。

たくさんの方々のおかげで、東関東のステージに立たせていただくことができたので、感謝の気持ちを忘れずに、これからも努力を続けていきたいです。みなさん、ありがとうございました。

「東関東吹奏楽コンクールに出場して」

那須塩原市立西那須野中学校吹奏楽部 部長 田端 成美

9月8日(日)に神奈川県横須賀市で行われた「東関東吹奏楽コンクール」に、私たち西那須野中学校吹奏楽部は、県代表として3年ぶりに出場させていただくことができました。

出演順が2番ということもあり、本番のステージがある横須賀へは前日からの移動となりました。本番前日にバスの中から見た、会場であるよこすか芸術劇場はとても大きく、「いよいよ本番だ」という気持ちと共に感じた緊張感は、県コンクールの時とは違うピリッとした強さと重みがありました。

そんな中、前日の夜と当日の朝早くの仕込みと最終チェックは、とにかくいつもどおりの演奏を心がけました。

迎えた本番、広いホールとたくさんの客席にいる人を見た瞬間、やはり緊張をしましたが、舞台袖での仲間との握手や、多くの方々にかけてくださった言葉や笑顔を思い出し、緊張がありながらも集中して演奏することができました。ミスもありましたが、これまで練習してきた自分たちの音楽を精一杯届けることができたと思います。

結果は銅賞でしたが、東関東という大きなステージで演奏できたことにとっても感謝しています。また、会場で聴いた他校の演奏などは同じ中学生でもたくさん刺激を受けることばかりでした。

そんな経験、また反省を生かし、これからもより成長していきたいと思うと同時に、活動を支えてくださった保護者の方々や先生方、卒業生の先輩方など、応援して下さる多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、「心のある活動」と共に「心のある音楽づくり」に励んでいきたいと思っています。

「平成25年度 第19回東関東吹奏楽コンクール」に参加して

宇都宮市立鬼怒中学校 顧問 島田 洋暁

去年初めて東関東吹奏楽コンクールに参加させていただきました。去年の中学校B部門は、宇都宮会場だったためいつもの慣れ親しんだ宇都宮市文化会館での演奏でした。生徒にとっても私にとっても初の大舞台でしたが、会場の様子や経路は全てわかっているし、駐車場から本番直前まで移動中にお見かけする実行委員の先生方は、いつもお世話になっている方ばかりでした。おかげで、ホームグラウンドで東関東大会に参加できる安心感がありました。

しかし、今年は茨城大会。初めての土地・初めての会場での演奏は、コンクール当日が近づくにつれて演奏以外にも心配なことがたくさん出てきました。「打楽器の搬入口の様子が違う。」「搬入後の待機方法が違う。」「チューニング室の様子はどうなんだろう。」「自分の更衣はどこでしょう。」など、ちょっとしたことでありますが気になることがたくさんありました。そんな時に有難かったのは、経験豊富な他校の先生からのアドバイスと、保護者会役員

のお母さん方でした。お母さん方は、事前に会場やその近辺の視察をしてくださいました。

多くのご協力をいただいて臨んだ東関東大会でしたが、やはり当日は慌ててしまうことがありました。1つは、ひたちなか市文化会館にはコインロッカーがなかったこと。自分の貴重品をどうしようかと考えてしまいました。もう一つは、写真撮影場所への立ち入りが出演者のみで一般の方が立ち入れなかったことです。写真撮影エリア外から多くの保護者の方々がガラス越しにこちらを見ている様子は、まるで空港のようでした。やはり、場所が変わるとちょっとした違いがいろいろとあるんだなあ、と感じました。



さて、東関東大会は他県の学校の素晴らしい演奏を聴く貴重な機会と思っていましたが、出演順が遅かったためにあまり聴くことができず残念でした。ですが、プログラムを見ると各校の演奏曲は、中学校B部門の県大会ではあまり演奏しない曲が多く、その曲名からきくとレベルの高い演奏だったのだろうと想像させられました。東関東コンクールのプログラムは今後の選曲にも利用価値が大きいと思いました。

「平成 25 年度 第 19 回東関東吹奏楽コンクール」に参加して

宇都宮南高校吹奏楽部 顧問 西垣 徹

第 19 回東関東吹奏楽コンクールに出演して、あらためてその注目の高さを認識するとともに、会場の熱気や独特な緊張感を感じてきました。

本校の吹奏楽は部員が全部で 41 名です。1 年生から 3 年生まで全部員で演奏することには、様々な苦勞を伴います。特にコンクールでは楽器の出し入れや、打楽器の搬出入などに時間がかかってしまうと、他団体に迷惑をかけてしまいます。補助員がいないというのは本当に辛いです。演奏前に自分の楽器と向き合って本番に向けて集中していくことがなかなか難しいという問題があります。

また、よこすか芸術劇場という、栃木県からはもっとも遠い場所でのコンクールでした。バスを乗り降りする場所がなかったり、トラックの時間が厳しく制限されていたりと、宇都宮で行われるコンクールとはずいぶん運営が違って戸惑うこともたくさんありました。しかし、多くの保護者の方々が応援に足を運んでくださいました。これは何より心強かったです。

本番は、ホールの響きが今まで演奏したことのあるどのホールとも異なり、課題曲の冒頭の第一声で、私も生徒たちも大変動揺してしまいました。自分の指揮者としての未熟さを痛感し、どんなことにも動揺しない強い心を生徒たちに育てる必要があるなどの多くの課題が残りました。

今回、前日の宿泊先が、毎年全国大会出場の常連校と一緒にになりました。ホテルのロビーで、たまたまその学校の顧問の先生をお見かけしたのですが、普段見せるギラギラした表情(すいません)はなく、疲労困憊したくたな顔でソファに沈んでいました。その姿を見たときに、私も含め、コンクールに向かう姿勢など、本校はまだまだやることがあると強く感じました。

来年はホームグラウンドの宇都宮で東関東大会が行われるので、今年の反省を活かし、倍返しできるよう頑張りたいと思っています。

宇都宮南高校吹奏楽部 部長(2年) 阿久津 遥

初めての東関東大会に、緊張しっぱなしでしたが、本番はあっという間に終わってしまいました。演奏自体はミスも多々あり、銅賞という納得のいく結果でした。練習通りの演奏をすることができなかったことに悔いが残りました。でも、1人1人が気持ちを一つに頑張れたからこそ41人という少ない人数でも県代表に選んでいただけたのだと思います。来年は、また新しい仲間で全国大会を目指して部員全員で心一つにして頑張りたいと思います。

「第 19 回東関東吹奏楽コンクールに参加して」

栃木県立大田原女子高等学校吹奏楽部 部長 橋本 理那

私たち大田原女子高等学校吹奏楽部は、2年ぶりに東関東の舞台上で演奏することができました。

今年は栃木県が会場だったこともあり、県大会(予選)・代表選考会・東関東と三度にわたり宇都宮市文化会館のステージで演奏しました。東関東大会においては、いつも演奏している会場であるにも関わらず、いつもとは違った、張り詰めた空気が会場全体に広がっていました。見慣れない制服を着ている団体やたくさんのお客さんにとっても緊張しましたが、その反面、このようなステージに立てたことをとても嬉しく思いました。

演奏では、今回は難しい曲だったのですが今まで練習してきたことを出し切れるように、また、このメンバーでは一度しかない東関東のステージで演奏するために、様々な思いを込めて演奏しました。残念ながら120%の力は出せず反省すべき点がたくさん残ってしまう演奏となってしまいましたが、あの緊張感の中の演奏は忘れられません。とても良い思い出となりました。

演奏後、他校の演奏を聴き、良いと思うところや取り入れたいところをたくさん見つけました。どの学校も本気で吹奏楽に向き合い、そして心を込めて演奏していました。



この場で自分たちが演奏できたことはもちろんですが、たくさんの方の学校の演奏を聴けたこと、そして自分たちに足りないものが何かということを知ることができ、とても素晴らしい経験の場となりました。

またあのステージに立てるよう、自分たちの演奏をたくさんの方に届けられるよう日々練習に励んでいきたいと思えます。

「平成 25 年度 第 19 回東関東吹奏楽コンクールについて」

白鷗大学ウインドオーケストラ 部長 山崎 祥子

今年も大学の部で吹奏楽コンクール東関東大会に出場しました。県大会の反省を生かし、メンバー一人一人が練習に励みました。打楽器パートとして、舞台裏に楽器を運び、待機をしていましたが、各団体のチューニングの音や、他の団体の演奏が流れており、良い緊張感がありました。会場には出演者や聴きにきた方々がたくさんいらっしゃっており、少しでも多くの方に感動を与えたいと、より気合いを入れて演奏ができたと思います。舞台裏ではスタッフの方々が一生懸命動いてくださり、出演者の私たちも安心して演奏できました。表彰式の際も、とても温かく、出演者、スタッフ、審査員の先生方が和気あいあいとした雰囲気、緊張が和らいでいったのがとても印象に残っています。特に舞台担当の先生方がとても明るく、わかりやすく指示をしてくださっていました。それぞれが協力し合うことで大会がスムーズに、そして和やかに動いていけるということがよくわかる大会でありました。



③ 第 19 回東関東マーチングコンテストに参加して

「平成 25 年度 第 19 回東関東マーチングコンテストに参加して」

青藍泰斗高等学校 吹奏楽部顧問 與儀 和弘

10月6日(日)に神奈川県小田原アリーナで行なわれた、第19回東関東マーチングコンテストに出場して参りました。他県のバンドは大変人数が多く、ダイナミックな演奏演技を披露していましたが、本校吹奏楽部はわずか27名。それでも持てる力を十分に発揮し、無事に出演することが出来ました。

それでは、本校吹奏楽部員の感想です。

「私たちのマーチング」

青藍泰斗高等学校 2年 中島 胤美

私たち青藍泰斗高等学校吹奏楽部は、去る平成25年10月6日に開催された第19回東関東マーチングコンテストB部門に栃木県代表として出場することができました。

昨年も県代表として東関東マーチングコンテストに出場しましたが、その時は自分たちの力を発揮することができず、努力が足りなかったと後悔もしました。ですから、今年は絶対に悔いの残らないよう、私たちも見ている観客の皆様も楽しくなる演奏演技を心掛けて毎日練習してきました。

8月に行われた県大会では、課題を多く見つけることができ、部員一同その後の練習により一層の気合が入りました。屋外や体育館での練習では「全体がそろっているか」「個人の動きは合っているか」「隊形は崩れていないか」と何度も確認して練習してきました。演奏でも「リズムを揃えられているか」「バランスはよいか」「動きにあわせた音楽作りができていないか」など、部員が一致団結して課題に取り組んできました。そして、大会が近づくにつれ、部員の顔つきが変わり、目がキラキラしてきたのが本当によく分かりました。

大会前日に開催地入りした時は「明日はいよいよ本番、悔いの残らないように楽しくがんばろう」と誓い合いました。それでも、当日本番前にアリーナに入ると、ドキドキと鼓動が周りの人に伝わるのではないかと思うくらいに緊張し、特に私たちの前の学校の演技が始まると、体が震えてきました。不安になった私は、演奏が始まる直前に仲間を見ました。すると、今まで練習してきた時の、あのキラキラした目がたくさんあり、「仲間を信じ自分を信じて」演技を始めることができたのです。

結果も大切ですが、仲間とキラキラした目になれたことは、私にとってとても大切な宝物です。

私たち青藍泰斗高等学校吹奏楽部は人数が少ないですが、それでも人に感動を与えることは可能だと思っています。私はこの吹奏楽部の仲間と共に精一杯頑張れることが本当に幸せです。そして、仲間との一体感を感じさせてくれるマーチングの活動が大好きです。

また来年も、この舞台に立てるように、これからも努力を積み重ねていこうと思います。

青藍泰斗高等学校 吹奏楽部顧問 興儀 和弘

マーチングコンテストに参加させていただくようになって、ちょうど10年が過ぎました。最初は見よう見真似、暗中模索、何も分からずただ歩いているだけ。足もバラバラ、演奏もメチャクチャ。夏はコンクールだけでも大変なのに…。コンクールが終わったらすぐにマーチングの練習。お盆休みもなし。暑い練習場所を確保するのも大変。

それでも10年続けられたのは、多分、上記のような生徒の声が聞こえてくるからだと思います。栃木県でマーチングに取り組まれている団体は東関東の他県に比べると少ないのが現状です。人数の問題、楽器の問題、練習場所の問題、そして練習方法など、クリアしなければならぬことはたくさんありますが、生徒と一緒に苦労して一つの演技を創りあげた時の感動は、何事にも変えられない魅力があります。これをお読みいただいた先生方が、少しでもマーチングに興味をお持ちになられたのなら、楽器を持って歩いてみませんか？栃木県でもマーチング活動に取り組まれるバンドが増えることを願っています。

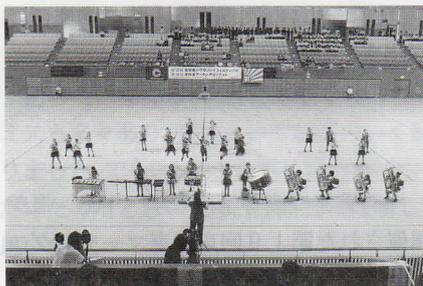


それでも10年続けられたのは、多分、上記のような生徒の声が聞こえてくるからだと思います。栃木県でマーチングに取り組まれている団体は東関東の他県に比べると少ないのが現状です。人数の問題、楽器の問題、練習場所の問題、そして練習方法など、クリアしなければならぬことはたくさんありますが、生徒と一緒に苦労して一つの演技を創りあげた時の感動は、何事にも変えられない魅力があります。これをお読みいただいた先生方が、少しでもマーチングに興味をお持ちになられたのなら、楽器を持って歩いてみませんか？栃木県でもマーチング活動に取り組まれるバンドが増えることを願っています。

4 第12回東関東小学校バンドフェスティバルに参加して

「第12回東関東小学校バンドフェスティバルに参加して」

高根沢町立阿久津小学校金管バンド部長 伊藤 雪奈



私達、阿久津小学校金管バンドは6年生11名、5年生5名、4年生7名、3年生7名の計30名で活動しています。今年は「我ら阿久津小金管バンド！AKB30！」と題して、かわいく・かっこよく・楽しく演技することを目標にして、先生方から音の大切さや細かい動きなどを指導して頂きました。また、部員全員がひとつになって演技をよりよくしようと一生懸命練習してきました。その結果、栃木県代表では初めての金賞を受賞することができました。

小田原アリーナはとても大きな会場で、大勢の観客の方々がいらして少し緊張しましたが、自分たちの演技が始まる前はすごく楽しみな気持ちでいっぱいでした。演技を終えたとき、今まで練習してきたことを出し切れたので、とても気持ちよかったです。

今回東関東バンドフェスティバルに出場できたことは、部員全員の最高の思い出になったと思います。



第13回東日本学校吹奏楽コンクールに参加して

「平成25年度 第13回東日本学校吹奏楽大会に参加して」

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 顧問 小宅 宏美

このたびは、東日本学校吹奏楽大会に参加させていただくことができましたが、全く予想もしなかったことで大変驚きました。また、こんな機会をいただけたことに幸運を感じ、感謝しています。東関東大会では、35校中35番目という出演順が本当にラッキーであったと感じています。富山行きが決まってからは更に多忙となり、10月1日からは、本校1、2年生の学校行事である3泊4日の宿泊学習があり、私も真岡市の自然教育センターでテント生活を送っていました。部員がそろって練習できたのは6日からとなり、それから当日までがあっという間で、睡眠不足が続いていました。立山に宿をとりましたが、富山のホールまでバスで60分でした。会場図やトラックの動き方等を何度も見ましたが、管打楽器の搬入口が同一で10分間という限られた時間だったため、ホテルから打楽器の組立てをしてすぐに降ろせるようにしていきました。途中駅のトイレを使用したり、受付に時間がかかったり、そして、天候はどしゃ降りの雨と、いろいろと気を遣うことが多くありました。

他校の演奏を聴いて感じたことは、完成された見事な音楽の披露であったことです。楽器の音色、サウンド、音楽づくり等全ての面で、精度の極めて高い洗練された音楽で、本当に感動的でした。ハイレベルの小編成吹奏楽の演奏を聴けたことは、大変よかったです。演奏にあたっては、前団体からのピアノの大移動、セッティングに時間がかかりアナウンスが終わってしまっても準備が終わりず、落ち着かない状況でした。十分な深い息を吸って演奏に入れたか不安でした。ゆとりがあるとよかったと思っています。

今回の出場にあたり、栃木県吹奏楽連盟の石塚武男理事長様にご来校いただき激励を受けました。本校の吹奏楽部を支えてくださった県の吹奏楽連盟、学校、地域、保護者の皆様感謝いたします。最高の演奏となったかどうかはわかりませんが銀賞をいただくことができました。この機会をいただけたことを少しでも生かせるよう、今後の指導にあたっていきたいと思います。

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 部長 渡邊 佳奈

東日本大会では、わからないことがたくさんありましたが、よい演奏ができたと思います。緊張して、曲の最初の方は、周りの音を聴くことができませんでしたが、いつも通りに吹くことを心がけました。緊張がありましたが、応援してくださった保護者の方々、先生方に感謝の気持ちをもって演奏できてとてもよい経験になりました。

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 副部長 高橋 穂乃子

私たちにとって初めての東日本は、慣れない遠出に生徒はみな疲れていたものの、今までの成果を発揮して銀賞を得られました。保護者、学校、地域の方々の応援に報いることができましたと思います。どの学校の生徒も真剣な態度でこの大会に臨んでいるのが様々な面からよくわかり、同じ舞台に立てることをうれしく感じました。どの学校もすばらしい音楽を作り上げていて音楽のすばらしさに感動することができました。今までとは全く違う環境下での演奏でしたが、よい経験になりました。

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 副部長 永倉 沙奈

東日本に出場できたことをとてもうれしく思います。結果は銀賞でしたが、他のレベルの高い学校の演奏はとても勉強になりました。知らなかった世界を知ることができ、貴重な経験でした。しかし、私たちだけの力だけで行けたわけではありません。ずっと応援してくださった保護者の方々や、他の部員、先生方、たくさんの人に感謝したいと思います。中学校最後の年にこんなにもよい経験ができ、音楽に熱くなれたことは一生忘れません。

▼真岡東中学校



▼鹿沼南高等学校



「東日本学校吹奏楽大会に参加して」

栃木県立鹿沼南高等学校 吹奏楽部顧問 荻町 修

10月13日、富山県富山市の富山市芸術文化ホールで行われた第13回東日本学校吹奏楽大会に、東関東支部代表として参加してきました。

創部4年目、コンクール3回目の出場でまさかこのような舞台に立てるとは思っていませんでした。

伝統も、楽器も、練習場所もなく、先輩もいない、わずか3人でスタートした私たちの最初の目標は、「コンクールに出ること！」でした。

そんな学校が3年後の今、目の前で「東関東支部代表」のアナウンスを受け、演奏しようとしているなんて。

指揮台の上の数秒間の間に、走り抜けてきた4年間のさまざまなことが思い出されました。

思えば、この「ひまわり、15本」～ヴィンセント・ヴァン・ゴッホに寄せてに出会ったのも幸運だったのかもしれない。贋作と呼ばれ、認められないでいた1枚の絵がさまざまな「たたかい」を経て認められていく過程と、ゴッホ自身の画家としての幸福とはいえない37年の短い生涯。そこに私たちは、この吹奏楽部の通ってきた道のりを重ね合わさずにはいられませんでした。

「同じ風景をみよう！」それが「めざせ金賞！」と言ったり金色の千羽鶴を折ったりすることの代わりに、部員たちに言ってきたことです。この曲のこの部分は何を表しているのか、主人公はどんな気持ちで、どんな風景をみているのか。音を合わせるのと同じくらい、そのことを揃えるのに時間を使ってきました。

本番の演奏は、「のびのびした」との講評もいただきましたが、あとからCDを聴くと指揮も演奏もやっぱり力の入りすぎたものになってしまいました。もっときれいな演奏ができたのに、とくやしく思います。

指揮者賞、というものを全顧問がいただき、講評用紙も渡され、ステージ上手袖で全顧問一緒に成績発表を聴きます。ですから、実は発表前に成績はわかってしまいます。

圧倒的な演奏で1位だったお隣茨城県の水戸女子高等学校の木村達也先生と「やりましたね！」と握手を交わし、今後の交流を約束しました。雑談のなかで、やはり小編成ではどこの学校でも同じように苦労はあるものだという事を知り、上手袖すべての先生方とお話ししてみたい気持ちになりました。

金賞は出来過ぎだと思います。でも思ったことは、「やってきたことは間違いではなかったんだ」という安堵、そして、自分を信じてついてきてくれた部員たちへの感謝の気持ち、そしていつも思い出すゴーシュの言葉。(今年あんまり怒っていませんが。)

「ああかつこう、あのときはすまなかつたなあ。おれは怒ったんじゃないんだ。」

6 クリニック&コンサート情報

— クリニック —

平成25年度栃木県吹奏楽連盟講習会

平成25年3月15日(土)・16日(日)宇都宮市文化会館

ゲスト:茨城県常総学院高校吹奏楽部

— コンサート —

第27回ファミリーコンサート宇都宮工業高校・宇都宮白陽高校

平成25年1月13日(月・祝) 宇都宮市立南図書館・サザンクロスホール

入場無料

演奏曲目:未定

宇都宮市立緑ヶ丘小学校吹奏楽部 「メモリー・コンサート 2014」

平成26年1月18日(土) 14時開演 宇都宮市緑ヶ丘地域コミュニティセンター

入場無料

演奏曲目:「アルルの女」から間奏曲「四季」から春・鍛冶屋のポルカ・花は咲く 他

宇都宮市立姿川第一小学校吹奏楽部「ドリーム・コンサート 2014」

平成26年2月11日(祝・火) 13時30分開演 宇都宮市文化会館小ホール 入場無料

演奏曲目:「アイダ」から凱旋行進曲・おもちゃのシンフォニー・A列車で行こう・ピンクパンサー・
ホールニューワールド・ドリフのずっこけ大集合・花は咲く 他

第3回宇都宮東高校・附属中学校音楽部「イーストミュージックコンサート」

平成25年3月30日(日) 13時30分開演予定 栃木県教育会館・大ホール 入場無料

演奏曲目:未定

高根沢町立阿久津小学校金管バンド 定期演奏会

平成26年3月16日(日) 13時30分開場 14時開演 高根沢町 町民ホール 入場無料

演奏曲目:ゲール・フォース(吹奏楽コンクール演奏曲)、ダンシングステージ 他

作新学院高校吹奏楽部 フレッシュ・グリーンコンサート

平成26年5月31日(土) 13時30分開演予定 宇都宮市文化会館・大ホール

入場料前売り・大人¥800- 高校生以下¥500- (当日券は各¥200-増)

演奏曲目:2014全日本吹奏楽コンクール課題曲、2014ニュー・サウンズ・イン・プラス 他

問い合わせ先 吹奏楽部090-3318-6826 平日16時~19時 休日9時~18時

第6回宇都宮南高校吹奏楽部定期演奏会

平成25年6月1日(日) 13時半開演予定 宇都宮市文化会館・大ホール 入場無料

演奏曲目:未定

編集後記



栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之(作新学院高校)

昨年の広報誌第1号で「本県の平成24年度の東関東吹奏楽コンクールでの成績は散々たるものでした。」と書いたのを思い出します。また、千葉県柏市周辺での小・中・高の連携した先進的な取り組みを栃木県でも採用できないかや指導者が正しい吹奏楽指導法を本気で学んでみましょと書いたと思います。

しかし、今年はそのような心配を吹き飛ばしてくれた明るいニュースがありました。真岡東中学校と鹿沼南高校が東日本学校吹奏楽コンクールへの出場を果たし、両校共に富山県のオーバードホールという立派なホールですばらしい演奏をしました。諸事情で全国大会への出場は辞退しましたが、阿久津小学校も見事な演奏演技を東関東小学校バンドフェスティバルで披露し、観衆を魅了しました。これら三校の他にも成果をあげた団体があったことは本県の吹奏楽にとって喜ばしいことでした。直接指導に携わった顧問の先生をはじめ、指導にかかわった方達や保護者の皆さんのサポートに心から敬意を表します。

さて、私たち吹奏楽の指導に携わるものとして吹奏楽部の活動は他の部活動と比べて、その活動の充実ぶりを実感することがあります。それは吹奏楽の活動は各大会に出場するだけでなく、数多くの演奏の機会に恵まれ、大勢の聴衆の目に触れるからです。入学式・卒業式・式典・体育祭・文化祭・応援、開閉会式、定期演奏会、慰問演奏、依頼演奏、国際交流などその活動の幅は広範です。これらの活動を通して必然的に多くの人たちの目に触れます。その際には生徒達は多くの人たちから、演奏している姿だけでなく、演奏の準備や片付けの様子、待機中や休憩中の態度、大会の時には鑑賞のマナーなどなど当人達が知らないうちにその吹奏楽部に対して評価がされています。演奏の時だけしっかりやろうという事ではなく、日頃から周囲に配慮が出来る人間性を磨き、クラブ内外から心地よさが感じられるクラブ運営が望まれます。コンクールで良い成果があがり、どんなに良い演奏が出来たとしても、クラブ内で部員同士がいがみ合っている活動が息苦しくて仕方ありません。そうなる中途で退部する部員が後を絶ちません。

ですから数多くの演奏の機会に恵まれる吹奏楽活動の特性をうまく利用し、生徒達がいつでも裏表なく素直で誠実な態度でいられるような心地よい雰囲気作りを顧問が醸成していかなくてはなりません。時には演奏活動を絶好の機会ととらえ、積極的に大勢の人たちと有意義な交流をすると良いでしょう。大会とは違う感動を味わうことができます。その際には否応なしに年齢層の異なる人たちとも接するため、自然と気を遣うことを覚え、周囲に気配りが出来る人間性を身につけます。まさに吹奏楽活動が生徒の人間形成に大きな役割をはたします。

この冬場の代替わりの大切な時期には積極的に他の団体と交流を持ち、良い刺激を受け合ったり、どんなに小さくても演奏の機会を作り、大勢の人たちと接する場を設けることをお勧めします。

指導者の皆さんがんばりましょう。

また、広報誌に対する要望・意見・感想などお待ちしております。是非お寄せください。